

文部科学省委託事業

「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証の評価を推進する事業」

## 文化服装学院

### 第三者評価報告書

第三者評価委員

滝沢勝則（株式会社三越伊勢丹ヒューマン・ソリューションズ取締役）

依田素味（日本経済大学経営学部教授）

森慈郎（大阪文化服装学院理事長）

深田勝久（香蘭ファッションデザイン専門学校副校長）

## I 評価結果

### 【判定】

評価の結果、学校法人文化学園 文化服装学院は、「ファッション分野における職業実践専門課程の質保証・向上の推進」事業における第三者評価委員会が定める評価基準を満たしており、適切な学校運営が行われていると認定する。

## II 総評

文化服装学院はファッション教育のパイオニアとして、日本を代表するファッション専門学校であり、国際的評価機関により、世界2位のファッション教育機関という評価を与えられた学校である。国内のファッション業界に留まらず、世界で活躍する事を視野に入れたグローバル教育は、世界各国で活躍する卒業生が全てを物語る。また、学校法人文化学園全体としてみると膨大な資産を有しており、財務基盤は潤沢である。

基本理念は学校教育法に基づき明確に定められており、優秀な業界人を育成するという使命を十分果たしている。特筆すべき点は、全国のファッション系の学校でスタンダードであり、ファッション産業界の全ての分野の要求を満たす幅広いカリキュラムを有しており、その教育には文化服装学院オリジナルのテキストが使用されている。

国内のみならず、全世界を対象に幅広く学生募集をし、留学生を積極的に受け入れ、入学判定は、厳正な合否判定会議により実施されており、正確且つ、公平な選考が行われている。

学校内部で中堅から若手教職員も交えた「10年委員会」をはじめ、各種専門委員会が組織化され、定期的に会議が行われ、事業計画を策定するなど組織的に横断的な確認が行われるように体制が整っている。また、人事・給与に関する規程は完備され、育児休業や定年後の再雇用についての規程も明確化され、教職員への周知されている。

将来の職種を視野に入れた各専門課程はいずれも活動方針をはじめ、教育目標・育成像・教育内容・評価方法は明確に定められており、カリキュラム内容は定期的な教育課程編成委員会を開催し、関連業界からの提言等を得て、より実践的な授業内容となるよう随時専門課程毎に検討が行われる体制が整っている。

連携授業は専門課程毎に懸案に対応する努力をし、学生が関われるように優秀な教師陣、専門分野の講師陣が業界で必要な知識と技術を余す事なく力を発揮し指導にあたっている。

学生の感性の向上に必要な教育設備は、他に類を見ない充実したものである。

就職に関してキャリア支援室を窓口し、求人企業数・求人数・職種は卒業生数を遥かに上回る募集があり、就職を希望する学生に対し、担任ならびにキャリア支援室専属の職員が連携して細かな指導を行う体制が整備されている。

資格・資格取得率は専門課程単位で執り行う検定は勿論、自主的に受験する者には最大限対策を行い合格率も高い。今後は、全専門課程、高度な職業人を育成する為と、学生自身の知識の習熟度を測る為に、授業の一環として検定を取り扱う等の検討を進める必要がある。また、世界で

活躍する卒業生が多くいるにも関わらず、卒業生の就職、転職、再就職支援に至っては外部に委託されており、卒業生の組織化は現在未整備であり、数多くの優秀な卒業生という人的資源活用の面からも、今後有効なネットワークを形成し、教育活動に活かす事が期待される。

教員研修等は、規定に則り様々な階層の教員が受けるよう整備され、研修を通して教員全体で常にアパレル業界の現状を把握する努力をし、各専門課程に特化した技術・知識を十分有した教員による教育が行われており、授業アンケートは教科ごとに執り行われ、アンケート結果は授業改善の為に、教員間で情報を開示できる環境が整っている。

特筆すべきは大規模学校でありながら中退学率の低さである。これは各専門課程が担任制度を取り入れており、各教員によるきめ細やかな学生指導はもとより学園常駐のカウンセラーの存在が大きい。給付型・貸付型いずれも学生の経済的側面に対応する学校独自の支援体制が整備され、また、十分な学生が入居できる寮も完備されている。

基本的に保護者会、保護者説明会などは特に設置していないが、今後は保護者宛に行事予定を発行する事を検討中である。学校は会員制同窓会組織「すみれ会」を有している。会員は在学中と同様に、教育施設（図書館、ファッションリソースセンター）の利用が可能であり、更に、保養施設の割引利用が出来る。

防災・安全管理も十分満たされ、個人情報保護規程は明確に整備され、学園全体で厳重な管理が行われているなど、法令及び専門学校設置基準を順守している。学校評価は自己点検・評価報告、内部評価、学校関係者評価を実施し、ホームページで適切に情報公開を行っている。

結論として、全国の服飾系学校を牽引してきた日本最大且つ最高峰のファッション専門学校であり、日本のみならず世界のファッション業界に対する人材育成面での貢献度は極めて高い。前述通り、世界的評価機関により、世界第2位のファッション教育機関としての評価も得ており、名実ともに、今後も日本のファッション教育を指導する立場で有り続ける教育機関と言える。

## 大項目 1 教育理念

### 中項目 1 教育理念

③優れている ②満たしている ①課題あり

文化服装学院は学校教育法に基づき明確な基本理念を定めており、また、世界レベルの技術教育だけでなく人間教育にも力を入れ、コミュニケーション能力を高める事により、社会に貢献できる社会的責任を果たせる人材を育成し、“世界のファッション界で活躍する、優れた人材育成”という使命を果たしている。特筆すべき点は、ファッション産業界の全ての分野の要求を満たすオリジナルテキストを作成そして、独自のカリキュラム構成となっており、国内外で活躍する卒業生の評価もさる事ながら、国際機関で世界第2位のファッション教育機関と認定された事が相応しい教育内容である。

## 大項目 2 基本項目

### 中項目 1 募集

③優れている ②満たしている ①課題あり

ファッション教育のパイオニアとして全国の学校を牽引する立場であり、全国的に広く浸透されている学校である。また、世界的デザイナーを輩出した実績は、国内のみならず海外の学生に対し募集の最大のアピールポイントになっている。募集要項はパンフレットやHPで明確に周知されており、入学判定に関しても、基礎問題の筆記試験、面接を中心に、幹部教員、事務職員による厳正な合否判定会議により実施されており、正確且つ、公平な選考がなされている。

留学生に関しては、入学後のミスマッチを防ぐため、担当者の面談等によるきめ細やかな配慮がなされている。

### 中項目 2 運営

③優れている ②満たしている ①課題あり

各種専門委員会が組織化され、各年度の事業計画が纏められ、毎月意見交換や審議を行い、幹部運営会議を経由してトップの承認を得る。創立100周年に向けて、中長期計画の指針のため、中堅から若手教職員も交えた「10年委員会」を立ち上げ、事業計画を策定する体制が整っている。

しかし、組織が大きい故に多くの意思決定教職員に権限委譲されていることから、一部ばらつきが出るなど、学校としてのコントロールが効きにくい点があり、今後は改善を要する。

人事・給与に関する規程は完備されており、育児や定年後再雇用についての規程も明確化され、教職員への確に周知されている。又、情報システムに関しては約25年前に導入されて以来、専門的知識を有するスタッフにより運営されている。

### 中項目 3 財務情報

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

職業実践専門課程基本情報である財務諸表は全て HP 上で正しく公開されている。また、在校生の保護者へも送付し情報を広く開示している。学校法人文化学園全体として膨大な資産を有しており、財務基盤は盤石である。しかし、文化服装学院に関しては、ここ数年は学生数の減少により、人件費等の消費支出超過が続いているが、今後は学生数（留学生）の増加も見込まれる。また、学園が保有する収益事業も順調に利益を上げている事もあり、今後は収支状況も改善される見通しである。

### 大項目 3 教育活動

#### 中項目 1 教育目標・人材育成像

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

文化服装学院の専門課程は（１）服飾専門課程 （２）ファッション工科専門課程 （３）ファッション流通専門課程 （４）ファッション工芸専門課程の４つの部門に分類されるが、いずれも学園自体の教育目標・育成像は明確に定められている。しかし、各専門課程で重複する育成目標があるため、明確な人材育成像を検討する必要がある。

##### （１）服飾専門課程：

一品ものの服作りを行う課程であるが、結果的にオートクチュール或いは、伝統技術等の「職人の卵」を育成するアーカイブとなっている。企業デザイナー、パタンナー等を目指す学生は３年目のデザイン専攻科・技術専攻・オートクチュール専攻への進学も可能。

##### （２）ファッション工科専門課程：

産業界が求めるデザイナー、パタンナー等の企画職、或いは縫製等幅広い分野の職種に対応したカリキュラム構成となっている。企業と連携がとれたインターンシップ制度を導入しており、企業での即戦力として通用する人材を育成している。ファッション業界で活躍する卒業生も大勢おり、最新の技術・情報の導入にも積極的。特筆すべき点は、特にパタンナーに関しては、パリ、ニューヨークで文化服装学院卒業生の技術力が大いに認められ、パリコレクション、ニューヨークコレクション等主要なコレクションで大活躍している事である。

##### （３）ファッション流通専門課程：

ファッション流通産業の様々な職種において即戦力となる専門科目を中心としたカリキュラムが構成されている。ファッション工科専門課程と同様、企業と積極的にコラボレーションに取り組み、或いはインターンシップ制度も採り入れられており、実践的な取り組みは実務に繋がる専門性を養う事を目的としている。

##### （４）ファッション工芸専門課程：

テキスタイル、帽子・ジュエリー、バッグデザイン、シューズの4つの工芸に携わる業界別の分野に対応した科に分かれており、それぞれの分野で極めて専門的な技術・技能・知識が学べるカリキュラムとなっている。

## 中項目 2 活動方針・計画

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

職業実践専門課程の基本情報に、専門課程ごとに教育目的・目標は明確に記載され、HP ならびに紙媒体で情報公開されている。教育理念に基づく活動方針・事業計画は各段階の会議、各専門委員会で議論され、教職員全員を対象にした「BUNBUN」と呼ばれる HP を設け、行事、検定、企業コラボ、コンテスト等の最新情報を公開し、全教職員への周知が図られる工夫が成されている。

各種コンテストに関して、全学生がエントリーの対象ではないが、自主的に活動する学生に対しては最大限に支援する体制が整っている。

## 中項目 3 教育課程編成委員会

③ 優れている 2 満たしている 1 課題あり

ファッション教育を牽引する文化服装学院ならではの、幅広く密接な企業との関係或いは企業で活躍する膨大な数の卒業生を背景に、各専門課程の教育課程編成委員会のメンバーは、業界全体を網羅しバランスが取れた申し分ない構成となっている。教育課程編成委員会は年2回実施され、必要に応じ各専門課程に分科会を設け、関連業界からの提言等を得て、より実践的な授業内容となるよう随時専門課程毎に検討が行われる体制が整っている。

## 中項目 4 連携授業と連携教育

③ 優れている 2 満たしている 1 課題あり

長年培ってきた経験と実績、また、学校の知名度、そして、情報が集まりやすい東京都心に位置する事から、様々な企業と連携授業・連携教育を実践的且つ積極的に行える環境が整っている。専門課程毎に懸案に対応する努力をし、学生が関われるように教員が配慮し、時間外を含めて指導に当たっている。また、各専門課程に合わせた業界の協力を得られる教育体制ができており、他に類を見ない充実した連携授業が実施されている。商品企画の連携授業では、企業側から販路、売上状況等の定量的な情報がフィードバックされる体制になっており、実践力養成の大きな力となっている。

## 中項目 5 目標の設定

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

職業実践専門課程の基本情報である専門課程毎に具体的な職種を明文化して正しく目標を定め、HP またパンフレットへ記載されている。特徴として 1 年次の基礎課程を踏まえて、2 年次においてより就職に連動した実践的で専門的なコース選択ができる。

しかし、服飾専門課程については、幅広く服作りを学ぶ事をカリキュラムの中心に据えており、必ずしも目標とすべき職種が明確化されているとは言い難い。但し、服飾専門課程についても高度な専門知識や技術の向上を修得できる 3 年次（デザイン専攻・技術専攻・オートクチュール専攻）の選択コースに進学する事で、職種等進むべき進路を明確にする事が出来る。

## 中項目 6 教育内容・評価等（共通項目）

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

学校の教育理念に基づき、専門課程毎にコミュニケーション力を図る教育、プレゼンテーションを向上させる教育、グローバルな感性を向上させる教育、コンプライアンスについての教育も、カリキュラム上正しく取り組まれ行われている。

主に 1 年次では基礎知識習得に重点を置いたカリキュラムとなっており、企業との連携授業は各々の成長を図る大きな役割となっている。全学生が対象ではないが、進級後の実践的なインターンシップも同様の役割となっている。

評価に関して、各科の教員間の横断的な確認は、グループ長管理のもと定期的な意見交換を行い、各委員会を通して漏らす事なく全体に共有されている。

学園全体で国際交流センターを設け IFFTI の重要メンバーとして欧米のトップファッションスクールと交流を深めるとともに、上海、大連の大学と提携関係を結ぶなど、日本を代表するファッション専門学校としての地位を確固たるものにしている。

## 中項目 7 教育内容・評価等（個別項目）設置学科に応じて評価項目を選択する

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

専門課程毎に、各専門性を深く追求し、国内だけに止まらず世界を視野に入れた教育プログラムは充実している。企画、技術、販売、スタイリスト、工芸等ファッション業界が求める幅広い分野で、それぞれの職種が求める専門知識・技術が全て学べる独自のテキストを使ったカリキュラムと、学生の感性の向上に必要な充実した施設が用意され、学生はもとより全教員も活用できるよう設置されている。

ファッション業界それぞれの分野で活躍する卒業生を招いた特別授業等、学生が実践力を養う各種コンテスト、積極的な企業連携授業の機会も与えており、ファッション業界の教育に大いに

貢献している。

## 中項目 8 特色ある教育

③優れている      2 満たしている      1 課題あり

ファッション産業界の全ての分野の要求を満たす幅広いカリキュラムを有しており、その教育には文化服装学院オリジナルのテキストが使用されている。このテキストは全国のファッション系の専門学校のスタンダードとなっている。

日本を代表するファッションの専門学校として業界との繋がりが極めて広く且つ、深い事が実践教育を行うに際しての最大の特色となっている。

突出した世界的な卒業生デザイナー、そして業界で活躍する外部講師の特別授業、特別講演会のみならず、美術館、舞台衣装見学などの学外授業、ファッションに関わるあらゆる分野において企業との連携授業が可能となっている。更に、学生の企業実習の成果が企業によって評価されるシステムも整備されている。

技術を中心とした各種コンテストの受賞歴は目を見張るものがあり、ファッションスクールランキング世界 2 位の評価にあるように、これまで世界で活躍している人材の育成実績を上げている点は大きく評価できる。

## 中項目 9 教育設備

③優れている      2 満たしている      1 課題あり

服飾博物館、リソースセンター、図書館、ビデオ資料館等他校の追随を許さないアーカイブが完備されており、学生のファッション感覚の向上に最適な環境が整備されている。素材についても染め、織り、ニットともに最新の設備が導入されている。

各実習室には現在企業で使用されている機器と同一のものが計画的に配備され、学生は在学中により専門的なスキルを得て、企業で即戦力として力が発揮できる。

情報機器設備については開発スピードが非常に早く、そのバージョンアップが課題ではあるが、各教室十分な台数を保持し、同じレベルのソフトで学習できるよう配慮がなされている。他に類を見ない充実した設備が完備されている。



## 大項目 4 学習成果

### 中項目 1 就職・就職率

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

歴史的な貢献と学校の立地が情報の集まりやすい東京都心に位置する事から、求人企業数、求人数並びにその職種は卒業生数を遥かに上回る件数が来ており、環境としては整っている。就職学内ナビ「キャンパスプラン」「キャリア支援サイト」で常に新しい就職情報を配信し、時間的制限なく就職活動できる環境を整えている。年 3 回開催される学内合同企業説明会、就活展示企画会、企業研修など働く事を意識させる取り組みも十分行われている。

キャリア支援室も完備され、学生に丁寧に対応する専属職員も配置され、指導も充分行き届いている。しかし、就職の指導は希望者に限定され、よって就職数、就職率ともに高いが、留学生を含み、在校生数が非常に多い事もあり、非就職者への対応等細やかな対応に一部課題が残り、各専門課程の担任と連携して今後さらなる包括的な支援が求められる。

### 中項目 2 資格・資格取得率

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

日本ファッション教育振興協会主催の検定の試験会場になっており、全国で最大の受験者数を誇る。全ての専門課程に該当しないが、服飾分野の検定試験の殆どが認定資格である事、その結果が必ずしも就職、或いは学業成績に直接結びつかない事などの理由と、検定受験に関しては学生本人で意思決定するという指導のもと、近年検定受験者数、合格率とも減少傾向にある。

今後は、職業実践専門課程のミッションである高度な職業人を育成する為には、産業界の連携の強化という視点、また、学生自身の知識の習熟度を測る為に、授業の一環として検定を取り扱う等の検討を進める必要がある。

### 中項目 3 成績評価・単位認定等

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

各専門課程とも評価基準は学則に明確に定められている。

成績評価は、ペーパーテスト、実技テスト、課題作品の評価、技術評価に加え、学業姿勢、出席等も加味して、AA,A,B,C,F（不合格）と表記される。しかし、インターンシップについては対象が全学生ではないため、正規の成績評価ではなく、企業からの直接認定方式を行っている為、インターンシップ先の企業と連携して、評価シートを作成し、業界からの視点で成績評価が出来るのが課題として残る。

#### 中項目 4 学習成果

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

専門課程毎クラス担任・副担任制をとっており、出席管理、授業の進捗状況等の把握だけではなく、個々の学生指導をはじめ、生活面などの相談事項への対処、情報提供、各種行事のサポート、キャリア教育等多岐にわたりクラス担任が担っている。

授業アンケートも担当教員が結果を確認し、授業内容や指導方法等を検討している。この授業アンケートは同じ教科を担当する教員にも成果として公表され、授業内容を検討する手立てとして大いに活用されている。

#### 中項目 5 卒業生社会的評価

3 優れている 2 満たしている ①課題あり

同窓会「すみれ会」は存在するが、卒業生の就職、転職、再就職支援は外部「ファッションキャリアリンク」システムに委託しており、キャリア支援室では卒業生情報ならびに卒業生求人情報を直接取り扱っていないなど、実質的には同窓会とはリンクされていない。また、卒業生の社会的評価を目的とした、卒業生の定着率等の企業アンケートも現在は実施されていない。但し、キャリア支援室が採用企業との接触をはじめ、その他教員が採用企業と接触機会は多く、卒業生の基本的な情報を得る体制は整っている。

よって、卒業生の組織化は現在未整備であり、数多くの優秀な卒業生という人的資源活用の面からも、今後有効なネットワークを形成し、教育活動に活かす事を期待する。

#### 大項目 5 教員の質の保証

##### 中項目 1 教員・教員組織

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

教員全体で常にアパレル業界の現状を把握する努力をし、各専門課程に特化した技術・知識を十分有した教員による教育が行われている。

教員の割合は専任が約 6 割、専門カリキュラムの非常勤講師が約 4 割となっており、各専門課程のグループ長に至っては、非常勤講師のカリキュラム内容を正確に把握するように努め概ね円滑に実施されている。

学院長を筆頭に各専門課程のグループ長、教員、非常勤へと指揮系統が確立されているが、非常勤講師については各自のスキルを確認する機会が少ないため、非常勤講師のスキルと学院が求めるスキルを考慮し、見直しを検討する必要が急務である。

## 中項目 2 教員評価

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

教務委員会が主幹し全科目を対象に学生による授業評価アンケートを実施しており、学生が充分理解できる授業であったかの検証を行っている。このアンケートは、別の教員が担当している同じ教科も並列して記載されているため、全教員の評価を可視化するシステムも構築されている。

3 年間は任期制嘱託であるため、新任教員に対しては指導教員による指導が行われ、それ以降は就業年次に合わせ研修をとり行い、4 年目以降の教員は、グループ長、副グループ長、チーフを対象に聞き取り調査が実施され、その結果が次年度の配属、人事体制に活かされている。

## 中項目 3 教員研修

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

新任教員研修では技術向上のための研修をとり行い、その指導は主任教員、所属のグループ長、副グループ長、チーフが担当している。その後の階層別研修は毎年、学院事務局教務部が主催し、「教員研修規程」「教員の海外研修及び国内研修に関する規程」に基づき、指導力・役割意識・資質の向上を目的として実施されている。また、ファッション関連企業等から講師を招き全教員の知識、技術、実務能力の向上を目指して、研修を行っている。

学内の研究企画委員会で教員相互の研修システムによる研鑽については評価できる。しかし、各専門分野の教員研修については、幅広く実施されているが、受講者に偏りが見られ、人物評価と人事考課が連動しておらず、年功序列システムのため若手活用の面において今後の整備が必要とされる。

## 大項目 6 学生支援

### 中項目 1 就職

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

学内合同企業説明会は、年 3 回開催され例年 70 社以上が参加。また、個別企業説明会は随時開催され 30 社以上が参加している。平成 26 年度の求人件数は、732 社 5,846 名に上っており、卒業生（約 1,000 名）を大幅に上回る求人件数が確保できている。求人情報は、就職学内ナビ「キャンパスプラン」により、タイムリーに発信されており、学生が時間の制約をうけず就職活動できる体制が整っている。キャリア支援スタッフ（常勤 5 名、非常勤キャリアアドバイザー 2 名）が学生相談、応募書類添削、面接練習に対応している。尚、キャリア支援室だけでなく、各専門課程の担任が、キャリア支援を担っている。

しかしながら、指導が現場に任されており、今後は学校全体で、国内外への就職サポートの整備が必要とされる。

## 中項目 2 中途退学への対応

③優れている      2 満たしている      1 課題あり

学生課指導の下、中途退学数、率は大変低い数字を達成できている。その要因の一つに専門課程毎クラス担任・副担任制をとっており、個々の学生の出席管理、授業の進捗状況等の把握だけではなく、生活面などの相談事項への対処等多岐にわたりクラス担任が担っている事があげられる。また、月毎の退学者数や理由などの把握を継続的に行っている。

そして、入学後ミスマッチが生じた生徒には幅広い専攻設定の利点を活用して、コース変更等の対応で継続維持を可能とし学校全体で退学者を減らす取り組みがなされている。

## 中項目 3 学生相談

③優れている      2 満たしている      1 課題あり

臨床心理士の資格を有した常駐のカウンセラー2 名がおり、問題を抱える学生の相談に常に応じる体制ができている。この事が結果的に中途退学者の率・数の減少に奏功している。

学生相談の周知は、パンフレット、新入生オリエンテーションでの講演、各クラスで臨床心理士の講義をとおり行われ、相談内容は守秘義務が徹底され、学生が安心して相談できる環境が整っている。

学生相談室だけでなく、各専門課程の担任・副担任が様々な相談に対処できる環境も整っている。

## 中項目 4 学生生活

③優れている      2 満たしている      1 課題あり

給付型・貸付型いずれも学生の経済的側面に対応する学校独自の支援体制が整備されている。日本学生支援機構奨学金、企業協賛奨学金等公的な奨学金に加え、同窓会組織が中心となった学校独自の奨学金制度を完備している。学校設置基準に沿った健康診断の実施、学校直営の寮を完備し、留学生は中国を中心として 645 名を数えるが、外国語（中国語・韓国語・英語）を話せる相談窓口を教員を配置し、留学生の相談に応じる体制ができている。

学生自治組織として「学友会」があり、部活動については、活動費を確保し、大会参加時には公欠扱いが認められている。

## 中項目 5 保護者との連携

3 優れている ② 満たしている 1 課題あり

保護者会、保護者説明会などは特に設置しておらず、クラス担任は学生が学業に支障が起きた場合に保護者に連絡を入れる体制になっている。特に年度初めの4月に重点を置き、休みが続いた場合は、保護者へ連絡を取るきめ細かい連携体制は一定の評価に値する。保護者からの過度なクレーム等が来た場合は、事務局で対応する体制が整っている。

## 中項目 6 卒業生・社会人

③ 優れている 2 満たしている 1 課題あり

会員制同窓会組織（すみれ会）を有している。学園祭などの際に活動して在校生との交流を行っている。

学内に事務局を置き、定期的に総会・広報紙を発行している。

会員は在学中と同様に、教育施設（図書館、ファッションリソースセンター）の利用が可能であり、更に、保養施設の割引利用が出来る。

現在は3年間の会員制のため、今後は卒業生社会的評価に関連する事から卒業生を永久会員にする事、また、在校生への奨学金支援が検討されている

## 大項目 7 教育環境

### 中項目 1 防災・安全管理

③ 優れている 2 満たしている 1 課題あり

学校の安全管理を図る委員会（自衛防衛・地区体組織を作り、地区隊長を設け、7つの係り）で組織的に行われている。この組織により毎年、文化学園総合消防訓練計画書に基づき防災対策に当たっている。渋谷区の要請により、帰宅困難者を受け入れるため必要最小限の資機材が準備されている。

## 大項目 8 内部質保証

### 中項目 1 関係法令

③ 優れている 2 満たしている 1 課題あり

法令及び専門学校設置基準を順守している。建築基準法に準じた校舎、学校保健安全法に基づいた健康診断も実施している。専門学校設置基準に基づき学則が定められ、校内規程も整備されている。総務、財務、施設等各部署に専門職員が配置され、専門知識に基づいて法令が順守されている。

現在まで重大な法令の誤解や乖離は発生していない。

## 中項目 2 個人情報

3 優れている ②満たしている 1 課題あり

個人情報保護規程を明確に整備し、個人情報の管理を行っている。特に学生の住所、成績、学費等重要データは適宜システム管理され、卒業生のデータはマイクロフィルム化して保管室の金庫に厳重に保管している。学内データの持ち出し等については、厳しく管理され、全職員へ周知されている。

また、学内システムからの様々な情報漏えいを防ぐために各種デバイスの使用は学内有線 LAN に限定し、情報の漏洩の対策が徹底されている。

## 中項目 3 学校評価

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、記載事項とチェック項目を学校独自に議論され、各部署が年間を通してチェックを行う。「自己点検・評価報告」「内部評価」「学校関係者評価」の会議を経て、自己点検・評価報告書が作成されている。平成 25 年度の学校関係者評価は、掲げた教育目標におおむね的確に取り組みがなされているとの高評価を得た。

## 中項目 4 情報公開

③優れている 2 満たしている 1 課題あり

ホームページ内に「職業実践専門課程認定校」のバナーを作成し基本情報を明確に公開している。また、「自己点検・評価報告」「内部評価」「学校関係者評価」を実施学校評価、財務内容等も含め、情報はホームページへの確に公開されている。学内でも情報を共有するため Outlook または冊子として各研究室へ配布されている。